

地域で安全・安心なまちづくりを目指して

●問合先 市役所交通防災課 交通防災 G 内線 138

安全に「絶対」はありません！

市内で「ここ10年間、犯罪認知件数は減少している」と話すと、首をかしげる方がいます。多くの方は、年々治安が悪くなっていると感じているようです。

また、「防犯灯を増やせば犯罪は防げますか」「防犯パトロールを増やせますか」等の質問を受けます。そういう時は「明るくしただけでは完全には防げない」「防犯パトロールにも限界がある」と説明をしています。

「安全・安心のためにはどうしたらよいか」と質問を受けることがあります。が、「安心は個人レベルでできますが安全に絶対はありません。泥棒は『いかに効率よく、捕まらないよう盗むか』を考えているので、それに負けないような対策をとる必要があります」と答えています。

犯罪に負けないような対策は、場所や建物の構造、家族構成により、各家庭で異なります。防犯用品店の情報をうのみにしないで、自分で知恵を出し、工夫して防犯用品を有効に使うこと、そしてその対策を継続することが大事です。地域ごとに自主防犯組織を立ち上げ、安全・安心なまちづくりを一緒に目指しましょう。

●市内の犯罪発生状況（平成25年1～12月）

発生地域	刑法犯総数	街頭犯罪	住宅侵入犯罪	万引き	コンビニ強盗	振り込め詐欺
①	486(△68)	181(△19)	43(△26)	100(+8)	0(0)	2(0)
②	158(△45)	64(△21)	20(△14)	2(△4)	0(0)	1(△1)
③	135(△11)	74(+6)	16(+3)	6(△6)	0(0)	2(+2)
合計	779(△124)	319(△34)	79(△37)	108(△2)	0(0)	5(+1)

街頭犯罪内訳

発生地域	乗り物盗			ひったくり	車上狙い
	自動車盗	オートバイ盗	自転車盗		
①	27(+11)	17(+7)	98(△42)	2(0)	37(+5)
②	6(△9)	10(+3)	39(△19)	1(+1)	8(+3)
③	3(△4)	3(0)	46(+7)	0(△1)	22(+4)
合計	36(△2)	30(+10)	183(△54)	3(0)	67(+12)

※()内の数字は、前年1～12月との比較

▶発生地域区分

- ①本町、松並、ひがし野、赤法花、百合ヶ丘、中央、松ヶ丘、大柏、野木崎
- ②久保ヶ丘、御所ヶ丘、立沢、松前台、薬師台、緑、板戸井、大木、大山新田
- ③みずき野、小山、乙子、けやき台、高野、鈴塚、美園

守谷市の交通事故発生状況（1月）件数 19件 死者数 0人 負傷者数 20人

取手市医師会健康教室

B型肝炎

肝臓は多くの働きをする臓器で、小腸から吸収された食物を栄養分として生成・貯蔵するだけでなく、薬物やアルコールなどの代謝、脂肪の消化吸収を助ける胆汁の生産などを行っています。このように重要な働きを有する肝臓ですが、沈黙の臓器といわれ、障害が起こればなかなか症状が出ないという特徴があります。肝臓に障害を来す疾患としては、アルコールによる肝機能障害や脂肪肝のほか、ウイルス性肝炎感染による肝障害があります。今回は、B型肝炎についてのお話です。

日本におけるB型肝炎の患者数は120～140万人に達するといわれています。日本人の人口を考えると100人に1人が感染しており、決して珍しい病気ではありません。さらに、日本における肝がんによる死亡者は現在年間3万人程度であり、同じ肝炎ウイルスであるC型肝炎から発生する肝がんが70%で、次の

でB型の慢性肝炎から発生する肝がんの患者の割合は20%と高率であり、多くの肝臓がんの患者がB型またはC型肝炎の患者から発生していることとなります。

B型肝炎ウイルス感染は劇症肝炎といった急激な悪化の経過をたどることもありますが、多くは自覚症状がなく、知らないうちに肝硬変、肝臓がんに進展する可能性があります。また1985年以前は、母子感染予防がしつかりとなされておらず、それ以前にB型肝炎ウイルスに感染している母親から生まれた子供は高い確率でウイルスに感染している可能性があります。B型肝炎の感染の有無は、血液検査で知ることができます。B型肝炎ウイルスに感染しても、適切な検査や治療を受けることで、肝硬変、肝がんへの進展を抑制することが可能です。今までに検査を受けたことのない方は、ぜひ一度検査を受けることをお勧めします。